

歳出

(町の支出)

質疑

土木費

維持工事費の確保は

佐々木委員 実質収支で約6億円の残額があるが、きめ細やかな予算編成で維持工事費をもっと多く確保できないか。

総務課長

歳入の厳しい状況等を踏まえ、当初予算段階における歳入をベースとした予算編成に当たっている状況である。



早く直してよ。

消防費

防火水槽の整備の方針は

佐々木委員 26年度の防火水槽の整備の方針は。また、無蓋の防火水槽の泥上げ等の管理が地域の大きな負担となっているが、今後防火水槽の整備はどのくらいのペースで進めていくのか。

総務課長

新設整備は2基であった。防火水槽の管理は高齢化、あるいは世帯数の減少等により負担になっている現状がある。全てを有蓋化とは考えていないが、取水の状況などの現場を踏まえつつ、整備に当たっていききたい。

教育費

教職員の多忙化解消は

笹原委員 本町のいじめの実態と、多忙な教職員へのサポートは。
教育長 いじめに関して26年度は数件の報告があったが、早期に対応した結果、全て解決している。事務補助員や支援員を配置するなど教職員の多忙化解消に努めている。



病院事業会計

収支損失の原因は

奥山委員 収支損失が5100万円になった原因は何か。

病院事務局長

収益は入院、外来患者数が計画よりも伸び悩んだことと、実質マイナスの診療報酬改定となったことから減収したと



誠意をもって対応

考えている。費用は会計基準の見直しや消費税の増額により雑損失が増加、施設の老朽化にともなう修繕費、医療機器等の更新により、純損失が発生したと分析している。